

# ごあいさつ



明けましておめでとうござ  
います。

町民の皆様には、輝かしい  
希望に満ちた新年をご家族の  
皆さんとお迎えのことと心か  
らお喜び申上げます。

年末に国内、国外の10大  
ニュースが発表されました。

顧みますと昨年は、マイマイ  
ガの大量発生、道の駅の開設、  
浦幌インター・チエンジの開通  
など、浦幌町にもいろいろな  
出来事がありました。

年初から週末になると崩れ  
る天候が続きましたが、5月  
には5年ぶりの風塵被害があ  
り、6月の大雪、更には7月に  
は長雨が続き、例年の3倍も  
の雨量となるなど、農業に被  
害が拡大してしまいました。

畜産・酪農は飼肥料の高止  
まり現象で、生産コスト高騰  
により、経営環境  
の厳しさは続い  
ていますし、林業  
市況は低迷し、円  
高による輸出產  
業の不振による  
梱包材の需要減  
から脱却できず  
います。

厳しいものがあります。

漁業については20年ぶりの  
不漁と予想された秋サケ漁で  
したが、予想されたほどでは  
ありませんでしたが、昨年と  
比較して漁獲量の減少となり  
ました。

昨年は、浦幌町の基幹産業  
である第一次産業にとりまし  
て、天候不順に悩まされ続け  
た年であり、大変厳しい年で  
ありました。今年は豊穣、豊  
漁を願いたいものです。

商工業につきましては、景  
気の低迷が購買力の低下を招  
いており、消費活動が減退し  
ているため、プレミアム商品  
券の販売を3度にわたり行い  
ましたが、一時的な対策だけ  
ではなく、抜本的な景気対策  
が必要となっています。

国際的金融危機は中国が牽  
引役となつて、世界経済を  
引っ張つており、アメリカ、  
ヨーロッパも立ち直りつつあ  
りますが、日本は円高、株安の  
二重苦から立ち直れず、さら  
に政府はデフレ宣言をするな  
ど三重苦に陥つてしまい、日  
本の独り負けの様相を呈して  
います。

真夏に行われるのは、明治  
以来100年ぶりといわれた

衆議院総選挙は、自民党から  
民主党への歴史的な政権交代  
となり、大きく政治風景が変  
わりました。

早期の経済対策が求められ  
ておりましたが、政権交代に  
対策として打ち出した約14兆  
円の平成21年度の第1次補正  
予算は2・7兆円が執行停止  
され、改めて約7・2兆円の第  
2次補正予算としての緊急經  
済対策が組まれました。これ  
により日本経済が立ち直り、  
生活不安、雇用不安を引き起  
こしている三重苦が解消され  
る道へ進むことを期待したい  
ものです。

多くの卒業生を輩出し、伝  
統に裏付けられた浦幌高校、  
上浦幌小学校、吉野幼稚園が  
閉校、閉園することになり、最  
後の卒業生となる子供達、統  
合校に移る子供達は愛着のあ  
る校舎と共に、思い出作りに  
取り組んでいます。

卒業生の皆様にとりましても、  
残念なことと思いますが、一  
度閉校する前に思い出の学び  
から脱却できず

舎をのぞいてみてはいかがで  
しょうか。

今年は浦幌町の開町111  
年となり、第2期まちづくり  
計画の最後の年となります  
で、新たな第3期まちづくり  
議論していただいています。

留真温泉再開発事業は町民検  
討委員会の皆様により、青写  
真が着実に出来上がりつつあ  
りますし、浦幌中学校の改築  
事業や平成23年7月にはアナ  
ログテレビが地上デジタル放  
送に切り替わることによる難  
視聴地域の解消を目指す事業  
にも取り組んでまいります。

難視聴地域の特定のため町民  
の皆様からの情報提供(アン  
ケート調査への回答)をお願  
いいたします。

浦幌町は確実に財政健全化  
への道を歩んでおりますが、  
さらに新たな一步を踏み出す  
ために、町民の皆様とともに  
協働のまちづくりを進めてい  
くことをお誓い申し上げ、年  
頭のご挨拶といたします。

浦幌町長

水澤 一廣

# 平成 22 年 新年



謹賀新年 明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、平成 22 年の輝かしい元旦をご家族お揃いで迎えられた事とお喜びを申し上げます。

ここ数年、今年こそ、この不況を脱し、明るい年になつて欲しいとすべての人達が悲願しているところであります。しかし、世界的経済環境の中では、日本だけが豊かになることは期待できず、特に地方経済を取り巻く情勢は依然として一層厳しく、一刻も早い経済の回復を願うところであります。

昨年をかえりみますと、本町の基幹産業である農業は、世界的な金融危機、燃油、肥料、穀物飼料、生産資材の高騰による厳しい幕開けでありました。とりわけ、6月22～23日の150ミリの集中豪雨、7月の曇雨天と不順な天候にみまわれ、過去20年で最悪の総額12億円以上の冷温

害被害額の見込みとなりました。

特に馬鈴薯、豆類においては40%以上、小麦、ビートは30%以上の減額がありました。農業生産基盤の検証も含めた整備等の必要性を改めて認識させられたところです。

林業、漁業は、需要と供給バランスはまずまずと思いますが、燃油、資材の高騰のあおりは解消されていない状況であると認識をしております。

林業については、地球環境問題が重要視される中、明るい見通しがあることを願いたいものです。

また、商工業でありますが、近年の人口減少や景気低迷から消費購買力の低下等厳しい情勢は今後も続くものと考えられます。

今年は、本町で貴重な資源であります留真温泉の建設に着手する年であります。その後まで町民皆様のご意見をいただき最善の努力をして参りますので、ご理解とご協力をよろしくお願いを申し上げます。

最後に、昨年、今年と新型インフルエンザが流行いたしましたが、この予防、消毒、健康の管理に十分留意されますようお願いを申し上げます。

平成22年が町民皆様にとりまして、ご健勝で平穏な年であり、五穀豊穣、豊漁でありますことをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといったします。

森永乳業に移譲することに決定されておりますが、今まで以上に町の振興と活性化につながることを望み期待するものであります。

浦幌町議会議長  
田村 寛邦